

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2022年（令和4年）4月から6月

1 調査期間 2022年4月～6月（第1四半期）

2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者

3 回答状況

製造業	9社
建設業	3社
小売業	2社
飲食業	2社
観光業	4社
計	20社

4 調査項目 ① 3か月前と比べて

② 前年同期と比べて

③ 3か月後の見通し

※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。

④ 円安等で材料や資材の影響

⑤ 高騰している割合

5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

volume 5

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べると全体の業況DIは+30ポイントであり、前回の-10から+40ポイント上がり、景気は上向きになってきている。その要因は、製造業が全体の数値を押し上げている。

前年同期比においても、全体の業況DIは+50ポイントであり、前回比+25ポイント上がっている。業種別に見ても飲食業以外は上向きであり、新型コロナウイルスの影響を受けやすい観光業においては前回比+75ポイントと上昇している。

本調査をはじめ1年が経過したが前年同期比は右肩上がりになりつつあり、with コロナが少しずつ浸透してきている気がする。

3か月後の見通しでは、全体の業況DIは+10ポイントであり、前回比-10ポイントである。見通しが少し暗くなってきている。経営者の眼のコメントにもあるように各事業所とも資材高騰や経費増大に伴い利益が圧縮されている。

また、今回の調査では円安等で材料や資材の高騰の調査を実施した。調査事業所20社中20社が高騰の影響が「大いにある」または「」多少ある」を選んでいる。どのくらい高騰しているかの問いには、10%以内の高騰が一番多いが、20%から30%以内の高騰をあげる事業所も15%いる。今年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻に端を発し、円安が追い打ちをかけるように材料や資材の高騰に拍車をかけている状況がはっきりと表れている。

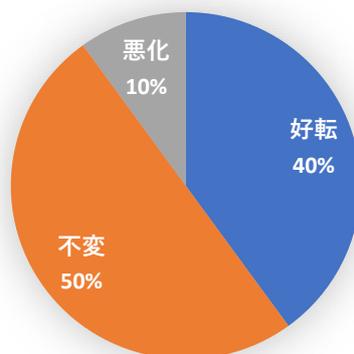
製造業などは親会社に値上げ要請をしたところもあるが、それがすべて受け入れられるとは限らない。対最終消費者を顧客としている小売業や観光業は売価を上げているところもあり、今後の客離れが懸念されている。

いずれにしても、材料や資材等の高騰がいつまで続いていくのかがカギとなる。企業が自助努力により高騰分を吸収できる間は良いが、それができなくなった時に新たな支援策が求められる。

<項目1> 3か月前と比べて

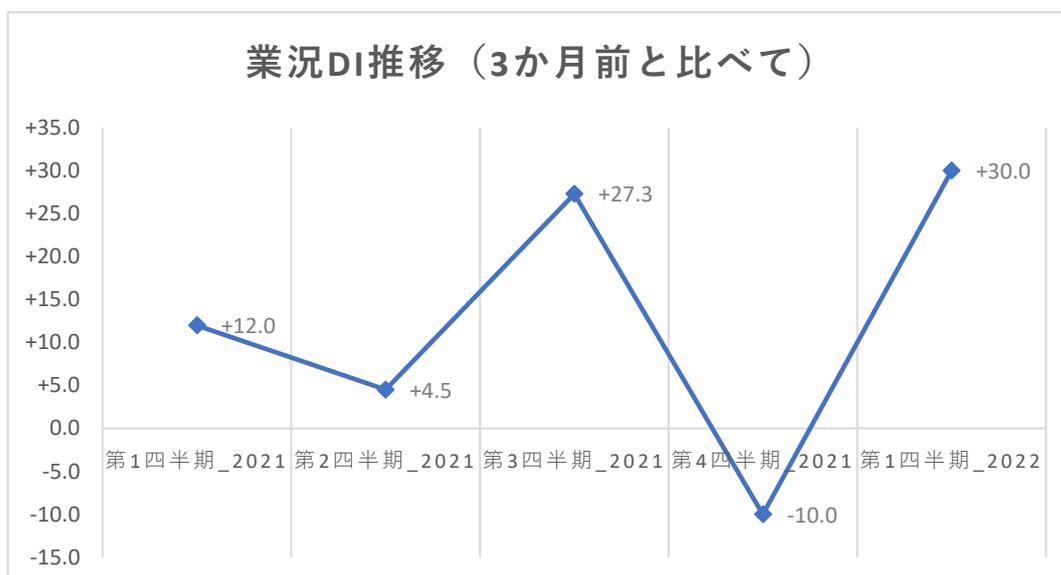
		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	8	10	2	20		↗
	構成比	40.0%	50.0%	10.0%		+30.0	
製造業	実数	4	5	0	9		↗
	構成比	44.4%	55.6%	0.0%		+44.4	
建設業	実数	0	3	0	3		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	1	1	0	2		↘
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
飲食業	実数	1	0	1	2		↗
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
観光業	実数	2	1	1	4		↗
	構成比	50.0%	25.0%	25.0%		+25.0	

全体



■好転 ■不変 ■悪化

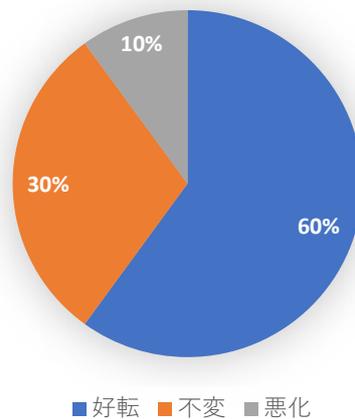
業況DI推移 (3か月前と比べて)



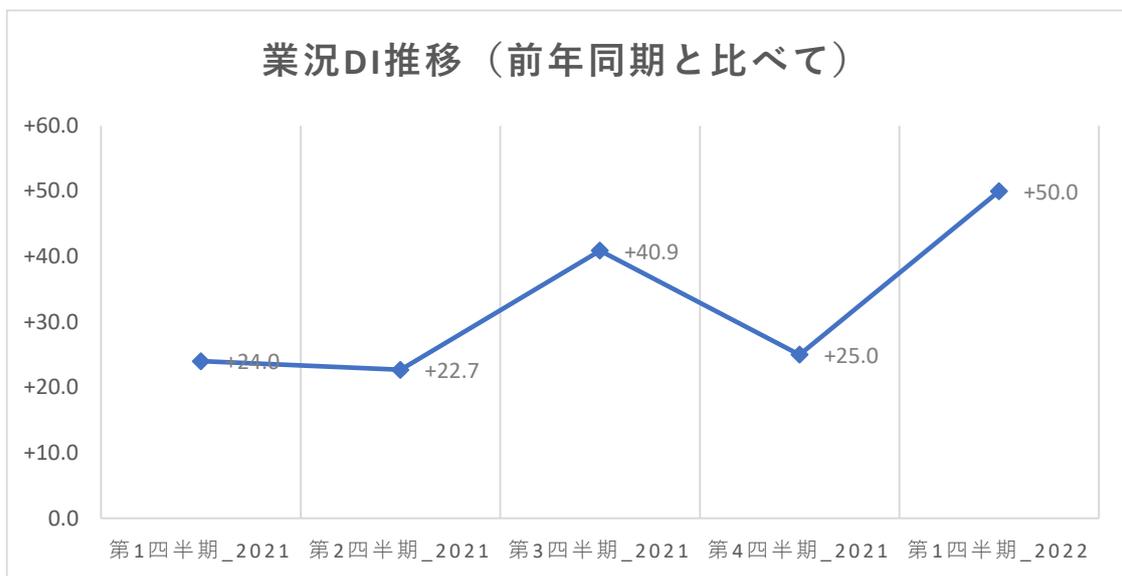
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	12	6	2	20		↗
	構成比	60.0%	30.0%	10.0%		+50.0	
製造業	実数	6	2	1	9		↗
	構成比	66.7%	22.2%	11.1%		+55.6	
建設業	実数	0	3	0	3		↗
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	2	0	0	2		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	1	0	1	2		↘
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
観光業	実数	3	1	0	4		↗
	構成比	75.0%	25.0%	0.0%		+75.0	

全体



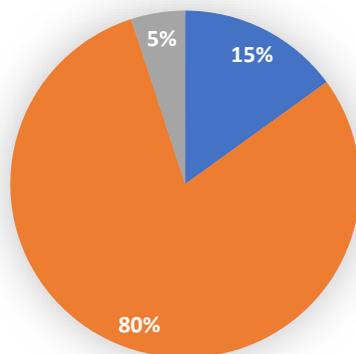
業況DI推移（前年同期と比べて）



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	3	16	1	20		↗
	構成比	15.0%	80.0%	5.0%		+10.0	
製造業	実数	1	8	0	9		↗
	構成比	11.1%	88.9%	0.0%		+11.1	
建設業	実数	0	3	0	3		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	0	1	1	2		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		→
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	1	3	0	4		↗
	構成比	25.0%	75.0%	0.0%		+25.0	

全体

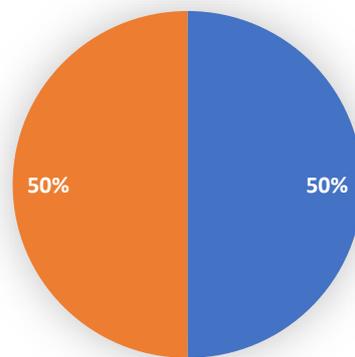


■好転 ■不変 ■悪化

<項目4> 円安等で資材・材料・仕入商品または経費等の高騰の影響はありますか？

		大いにある	多少ある	ほとんどない	まったくない	計
全体	実数	10	10	0	0	20
	構成比	50.0%	50.0%		0.0%	
製造業	実数	3	6	0	0	9
	構成比	33.3%	66.7%		0.0%	
建設業	実数	1	2	0	0	3
	構成比	33.3%	66.7%		0.0%	
小売業	実数	2	0	0	0	2
	構成比	100.0%	0.0%		0.0%	
飲食業	実数	0	2	0	0	2
	構成比	0.0%	100.0%		0.0%	
観光業	実数	4	0	0	0	4
	構成比	100.0%	0.0%		0.0%	

全体

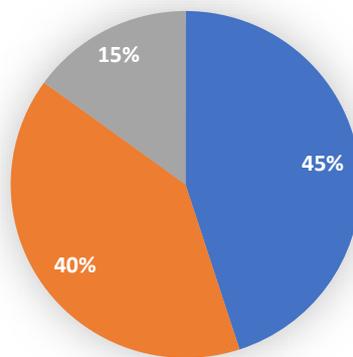


■ 大いにある ■ 多少ある

<項目5> どのくらい高騰していますか？

		10%以内	10%超から20%以内	20%超から30%以内	30%超	計
全体	実数	9	8	3	0	20
	構成比	45.0%	40.0%	15.0%	0.0%	
製造業	実数	4	5	0	0	9
	構成比	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	
建設業	実数	2	1	0	0	3
	構成比	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
小売業	実数	1	0	1	0	2
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
飲食業	実数	2	0	0	0	2
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
観光業	実数	0	2	2	0	4
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	

全体



■ 10%以内 ■ 10%超から20%以内 ■ 20%超から30%以内

<経営者の眼（見方）>

コメント	業種
原材料費高騰により、値上げを検討せざるを得ない	観光業
取引先からの部材支給が遅れ気味で心配である。	製造業
原材料、燃料等の仕入れ単価高騰は厳しいが客足が戻ってきている。感染症対策を徹底しながら営業活動を続けたい。	観光業
業種によって景気の差が激しい状況。景気自体悪くないが人手不足が深刻。	製造業
数年かけて行ってきた販路の見直しが結果に表れ始め、仕入れの額の高騰が続く中でもなんとか利益の改善につながっている。	製造業
従来であれば一週間程度で納品できたが、納期が長期、または不明といったケースが相次いでおり販売チャンスを逃してしまうことがある。状況的に値下がり、好転する可能性は低いと思われるため多めに在庫を用意する方向で動いている。	小売業
急激な円安がさらに追い打ちをかけ、販売価格への転嫁が追いつかない。仕入材の需給ひっ迫は向こう3カ月ほどで改善すると見ているが、徐々に進める販売価格のコスト転嫁が消費者に受け入れられるかは見通せず、様子を見ながらの転嫁となるため収益の改善には少なくとも半年程度を見込んでいる	建設業
インボイス対応が心配	観光業
どこかでブレーキがかかるため、引き続き注視。	製造業
堅調に推移しており今後も同様な状況が見込まれます。資材高騰や経費増大による利益減少や資材遅れによる納期遅延が懸念されます。	製造業
コロナの影響により、6月は半分程度の営業日となり売上を大きく減少させてしまいました。今後はコロナ禍の影響も減少し夜の会合等増えてくれれば好転する見通しとなります。	飲食業
昨年からじわじわと様々なものの値上げがあり、更に今年春の値上げと7月からの値上げで仕入れ値に影響がでている。いくつかのメニューは値上げしたが、いまのところ値上げによる客離れは見られないが、今後様々な値上げにより人々のお金の使い方が変わってくると、客足も減る気がする。	飲食業
良くなる可能性はないと思います	観光業
車の減産や住宅関連のストップにより7月以降の受注が減ってきている。上海ロックダウンの影響で部品ストップが大きな要因だ。顧客の仕事量の確保で勝負の差が大きくなっている。	製造業